

新型コロナ対策にジェンダー視点を！ 女性の声を集めよう、声を上げよう、つながろう

はたらく女性のみなさん、新型コロナウイルスの感染拡大のなか、暮らしにも活動にも様々な制約と困難が生まれる中で、日々奮闘されていることに敬意を表します。新型コロナ問題を通じて、医療や公衆衛生、公務公共サービスを切り捨ててきたこれまでの政治の問題点が噴出しています。利益・効率最優先で自己責任を押し付けてきた政治のあり方が問われています。いのちを守る、健康・安全を守る、くらしと雇用を守るためにこそ、政治はあるはずです。今こそ、あきらめずに声を上げるときです。新型コロナ感染防止に向けて、より一層の最大限の対策をとりつつ、各地方・地域の状況も踏まえながら、運動を元気にすすめていきましょう。

アニタ・パティア国連ウイメン副事務局長(国連事務次長)は、3月26日、「女性と新型コロナウイルス」という声明を発表しました。「封鎖や隔離措置の経済的影響が非正規雇用など弱い立場にある女性に重くのしかかっている」と指摘し、「家族の世話のために職場に行けなくなった女性、非正規雇用の女性などの援助を支援策の中に組み込むこと」を提起しました。また、外出禁止や移動制限がDVを誘発する危険があるとして、被害者を守るための電話相談や避難所(シェルター)を「基本的なサービス」として保障するよう呼びかけました。

新型コロナウイルスの影響にも「ジェンダー差別」が表れています。だからこそ、コロナ対策に「ジェンダー視点」が求められます。アニタ・パティア氏は、「政策の決定過程で女性の声を集めること、視線が多様化することが最終的な結果を豊かにする」と強調しました。

日本でも、安倍首相の「全国一斉休校」要請による困難は、家族的責任が集中する女性、非正規の女性に集中的にあらわれました。全労連女性部は、各単産の女性の声を集めて、3月6日、「女性労働者とその家族を守るための緊急の厚労省要請」を行いました。コロナウイルスの影響が長引く中、引き続きジェンダー視点に立った運動を最重点課題としてすすめます。

しかし、残念ながら、今年の単産地方組織交流集会については中止としました。「集まれば元気、語り合えば勇気」を合言葉に運動をすすめている女性部にとって苦渋の決断となりました。集まることはできないけれど、心をつないで、集めた声を要求にして、声を上げましょう。

いのち・暮らし・雇用が脅かされている今、女性の声・非正規の声・フリーランスの声・母親の声を集めましょう。医療現場、保育園・学童保育・学校現場、職場の切実な声を集めましょう。

集めた声を緊急要求にまとめて、申し入れ・要請行動を行いましょう。コロナウイルス関連の相談体制・検査体制・医療体制の抜本的強化、「自粛要請は補償と一体で」を原則に確実に手元に届く生活支援策、経済支援策などが求められます。さらに消費税率の引き下げも必要です。

軍事力で救える命はありません。今こそ、25条・29条をはじめ日本国憲法を生かす時です。しかし、こんな中でも改憲に執念を燃やす安倍首相。「憲法生かせ、憲法変えるな」の声を上げましょう。知恵を集めて、意義ある取り組みを工夫しましょう。

今、何よりも大切なことは、自らが感染しないこと、感染を広げないこと、いのちを守ることです。自分の健康管理をすること 十分な睡眠と免疫を高める生活を確保し、体調が悪い時は、きちんと休める労働環境を要求しましょう。

感染した人が一番苦しんでいます。差別を許さず、たすけあい、励ましあいましょう
大変な状況下ですが、こんなときこそ連帯が重要です。力を合わせましょう。